



小山高同窓会報

第6号

2023年3月1日

発行

小山高等学校同窓会

印刷 大星印刷(株)

同窓会長挨拶



同窓会会長
船渡川 進

第6号会報発刊に当たり一言ご挨拶申し上げます。

同窓会員の皆様には日頃より御協力・御支援を賜りまして誠にありがとうございます。

会報の発刊につきましては、同窓会編集委員の皆様のご御骨折りにより会員の方々より寄稿をいただきまして、今までになく充実したものとなりました。寄稿をいただきました会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

今年度は、第77回国民体育大会「いちご一会」とちぎ国体」が開催され、小山高等学校の選手達もめざましい活躍をし、すばらしい成果を残しました。なかでも、特に宇都宮市で開催された「剣道」では、少年男子選抜チームに出

場し、少年女子では小山高校単独チームで出場しました。男女ともに揃って優勝し全国に名を馳せました。また、少年男子の「バスケットボール」に部員が選抜され出場しました。ともに活躍を称えたいと思います。

同窓会の行事では、コロナ感染に注意を払って予定通り本部役員会及び同窓会総会を学校を会場に開催することができました。総会終了後には大塚氏の記念講演会「繁栄も衰退も主役は自分」～「依存型」から「自立型」へ！～が行なわれました。多くの会員の御出席を賜り感謝申し上げます。



令和4年小山高等学校創立記念講演会が、昨年11月9日に学校で開催されました。講師には、五月の総会と同様(株)日本ヒューマン経営研究社の代表取締役 大塚徹様をお迎えし、「生きる力、生き抜く力」～失敗は発見、

失敗は成長」と題しまして、ご講演をいただきました。講師の大塚様は本校同窓生で、栃木県を中心に全国で活躍されており、講演に向けて詳しい資料を作成して、自分の経験をもとにわかりやすくご講演をいただいたので、生徒たちも熱心に聞き入っていました。

最後に、小山高等学校同窓会の益々のご発展をご祈念申し上げます。



校長挨拶



校長 横尾 浩一

同窓会の皆様には、日頃より本校の教育活動に對しまして様々な所でご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

さて、昨年度は、コロナの影響により多くの学校行事が中止となつてしまいました。が、今年度は、感染予防に努めながら学校行事を進めています。校内球技大会を5月末に実施しました。7月末には、数理科学科1年生による日光自然探求学習を予定通り1泊2日で実施できました。9月に予定されていた学校祭は、生徒1名につき1名の保護者入場を認める形で実施しました。さらに、各学年ごとの来校者も時間を区切り、各学年2時間ずつの在校時間により来場者の制限をかけたうえでの実施となりました。それでも残念なことに、学校祭終了後に感染者が増加してしまったことは反省材料となりました。マスクをし、感染予防対策を施していても、このコロナは本当に厄介です。また、2年生の修学旅行は、従来通り3泊4日で1日目広島、2日目以降大阪、京都等への旅行を無事に実施できました。学校祭のこともあり、念には念を入れて感染予防にあたったことの成果かどうかはわかりませんが、旅行中及び帰校後もコロナ陽性者が一人も出なかったことは、

感染予防対策がうまく機能できた例となりました。創立記念行事は、10年ごとの周年行事のように、体育館に生徒を集め、同窓会会長、校長からのあいさつを含め、創立記念式典を開き、その後に創立記念講演会を本校卒業生の大塚氏にお願いしました。

同窓会総会時に大塚氏には講演を依頼し、大変好評であったため、生徒にも聞いてもらおうということ企画されたものでもありました。可能であれば、来年度も本校卒業生による、講演会を実施したいと思っておりますので、講演してもいいよ、と手を挙げてくださる方がありましたら、同窓会または学校まで連絡をお願いします。3年生は受験を控え、感染予防に努めながら学習に励んでいるところです。昨年に引き続きよい結果を同窓生にも伝えられることと思っております。今後も、感染状況等を見ながらの判断が続くかと思えます。厳しい判断をしなければならぬこともあるかと思いますが、何卒ご理解の程よろしくお願いいたします。

課外活動では、栃木国体において少年女子に本校剣道部が、本校単独チームで参加し、見事優勝を勝ち取りました。その他、剣道部男子、バスケットボール部等が参加し、大活躍をしました。さらに、ウエイトリフティング部、陸上部が関東大会に出場するなど運動部、文化部ともに活発に活動しています。

最後になりますが、創立104周年を迎え、伝統ある本校の更なる発展に向け、教職員ともども教育活動に取り組んでまいりますので、今後ともご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

新たな出発点



生徒会長 白岩 大夢

小山高校は今年で創立104周年を迎えます。長い歴史と伝統のある本校は、「文武両道」に励む校風が先輩方から受け継がれてきていると思います。生徒一人ひとりが学習・部活動において高い目標を持ち、友人と励まし合いながらその目標の達成へと歩んでいく。小山高校はそんな場であるといえます。

ここ数年、新型コロナウイルスの影響で通常通り学校行事を実施することが難しいなか、今年度は感染対策を講じた上で総輝祭を実施することができました。換気や消毒の徹底をし、保護者の参観を学年ごとに時間で区切る、飲食物の販売を禁止する、といった規制や対応がとられました。しかし、そんな状況下でも誰も文句ひとつ言わずに準備に励んでくれました。私たち生徒会役員も、みんなの思い出に残るような総輝祭にしたい！という思いで必死になって準備に取り組みました。その甲斐もあって、どのクラスや部活動・同好会でも、素晴らしいアトラクションや発表ができました。こうして学校行事が実施出来たことは未曾有のコロナ禍という時代における新たな小山高校の出発点であると思います。開催に

あたり協力して下さった全ての方に感謝申し上げます。

「聡・直・剛」これは小高生が心に留めておくべき言葉です。学習することによって知性を磨き、真つすぐに物事を捉えて実行し、心身を鍛えてより強くしていくとする、これらの理想は小山高校の目指すところの素晴らしさを伝えていきます。これからの小山高校を背負っていく後輩たちに古き良き小山高校の伝統を守り継ぐために、この言葉を胸に刻み、生徒会長として常に学校や生徒のことを思い、日々努力していく覚悟です。

最後に、いつも私たちのためにご支援して下さる同窓会の皆様に厚く御礼申し上げます。今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



不屈の歩みを次の100年へ

活躍される同窓生

60年前の小山高校の思い出



S.36年度卒業
佐藤佐知子
(旧姓 若松)

過日、小山高校同窓会会長様と役員様方が我家を訪問されて、同窓会会報の原稿を依頼されました。第4号の会報には現在の学生達が大変活躍されており、又、小高卒業生の方々の御活躍も載っており、御自分の人生を色々の苦労の中、誠実に生きて、今は幸せにしておられて感激致しました。会報はお付き合っている方々に送りました。

昭和35年前後の小山市は高度成長期で、大企業が次々と誘致され、地元の高校生を優先して採用すること、先生方は大変喜んでいたので覚えています。私も卒業して、早や60年です。平凡な主婦をしておりしたので皆様のような文章は書けません。昔の時世と思いを少々。あの頃、朝、小山駅から会社に行く人達五千人数の方々が、徒歩で各会社に出社しておりました。圧巻でしたよ。あの頃ミニスカートの流行った時です。

私達の学年は男子100名、女子50名で、一年の時は、男女一緒に3クラス、二年、三年で、男子ニクラス、女子一クラスでした。あの頃、運動部は強く、バスケット、野球、テニス、卓球、重量上げ等、運動部の生徒は体格が良く、二

時間が終わると一個目の弁当を、お昼に又弁当を、授業中は机に伏しておりました。又、午後は元氣よく運動場へ、午後にも又、2個位食べていたことを思い出します。今思い出すに親達は、育ち盛りの食欲を満たすのに必死だったと思います。

野球ですが、43年度に甲子園に出場しました。私たちが在校生の頃、だんだん強くなった運動部を応援するというところで、学校で応援団を作ったということで、在校生一同応援の練習がありました。参加していましたが時々、4、5名抜け出しており、ある時、団長、団員に追いかけられたことがあり先生に報告されたことがありました。団長、抜け出してゴメンなさい。

運動会では仮装行列をすることになり、男女10名ずつペアということになりました。私は「君の名は」の真知子、その時の相手とは、ほとんど会話もなしです。純情だったでしょう。その時、私の姉も小高卒業生で、先生方も姉のことはよく知っており、姉は日本舞踊の師範でしたので、仮装を手伝うと買ってくれ、着付等を手伝ってくれ、その時の人達に今でも感謝の言葉をいただいています。

あの頃、男子と女子が話をしているとクラスの中に知れ渡っていた。

学校で、会津磐梯山に登り、猪苗代湖畔でキャンプファイヤーをという計画があり、私も参加しました。キャンプファイヤーが終り、私達5人一組でバンガ

ローへ、組の中に二中出身者がおり、二中の男子と仲良しでした。男子のバンガローに夜8時に来てとのお誘いがあり、皆共々胸高なり踊り、ワクワクしてバンガローの中に入り、どんな話をしようかと、目はキラキラと輝き、その時、外より男の先生の大声が、「何してる、すぐバンガローへ帰れ。」との声が。あの時のがっかりした時の気持、まだ忘れません。

次の朝、男子より一緒に写真をとのお誘いがあり、男子5名、女子5名と写真を撮っていただきました。猪苗代湖畔の私の大事な、大事な青春の思い出の一枚です。

現在、小山高校は進学校で入学が難しいとのこと。益々の小山高校の発展を御祈念申し上げますと共に、この同窓会会報に携った方々に御礼申し上げます。



猪苗代湖 湖畔にて

青春の小山高グランド



S.43年度卒業
川越 義正

私が小山高校を卒業して今年で54年の月日がたちました。昭和41年4月に入学し、中学時代の先輩方の勧誘で陸上競技部に入部いたしました。振り返ってみると、高校での練習は想像以上に辛く厳しいものでした。8月には恒例の夏期合宿があり、朝・昼・晩と3回の地獄の練習でした。今までは想像もつかないような厳しいものでしたが、部員一同励ましながら、頑張り抜いたものでした。また、多くの先輩方が差し入れを持参して激励にきてくれ、大変感謝いたしました。

小山高校は、昭和39年度には、栃木県高校駅伝競走大会で優勝し、また、全国高校駅伝競走大会に出場しておりました。そのために全国大会出場を目標に練習に励んだものでした。当時の栃木県大会は、コースが道路ではなく、県総合運動公園陸上競技場のトラックを周回するコースで実施されました。そのために襷の受け渡しがなかったため、チームの駆け引きも無く、時間との勝負、自己の限界との勝負でした。私は第6区を任されて出場し、総合記録で僅差で真岡高校に破れてしまいました。惜しくも全国大会への夢はたたれましたが、鎌倉市で開催され

活躍される同窓生



見目武雄先生ご夫妻を囲む会

た関東高校駅伝競走大会に連続10回出場して特別表彰を受賞いたしました。

卒業後、OBとして在校生の指導を手伝い、多くの後輩が関東大会及び全国大会に出場を果たすことができました。さらに大学に進学し、箱根駅伝に出場して活躍した選手を輩出しました。

また、当時このような伝統校を築いてくださいましたのは、名指導者(故)見目武雄先生でした。見目武雄先生は、1949年から1989年の40年間小山高校一筋に奉職されました。当時は、練習に対しては「鬼の見目」と言われておりましたが、練習を離れると、人情味溢れる監督でありました。見目先生の御指導を受けたことが、私たちの生涯の基礎を

築いてくれたことと大変感謝しております。

1980年6月28日、鬼怒川温泉ホテルで「見目武雄先生ご夫妻を囲む会」が開催されました。100名を超える多数の卒業生が参加され、楽しい一夜を過ごしました。これも見目先生の人柄が偲ばれるもので、この思い出が今でも鮮明に残り忘れられません。

最後に、今後の小山高等学校の益々のご発展を御祈念申し上げます。



左が見目先生

H.3年度卒業
大木 元

私は、平成4年卒業の大木 元と申します。この度、このような機会をいただいたことに大変感謝しております。現在小山市内において保育園から高齢者施設やレストランなど14施設の福祉事業を行わせていただいています。このように幅

広く事業展開ができておりますのは市民の皆様はもとより、小山高校の幅広く多岐にわたる人脈のお陰であると日々感謝しております。われらが小山高校の卒業生には、小川亘氏をはじめ福田洋一氏、植村一氏、福田幸平氏、橋本守行氏、高橋栄氏と6名の方が市議会議員として日々小山市の発展と市民の幸せのために奮闘しており、その姿をみると自分も頑張らなければと背中を押されます。その他にも様々な分野で会社経営をしながら頑張っておられる方等大勢の同窓生が活躍されていることは私にとっても誇りであります。

振り返れば、学生時代はかけがえのない友人たちと勉強と部活そして遊びとすべてに一生懸命でした。卒業と同時に小山を離れ、秋田、宮城、イギリス、オーストラリアと転々とした生活をしていた時は、少し不安にもなりましたが、必ず小山に戻って頑張ろうとの一心でした。

特に同級生の小曾根里司くんが一念発起して隣の結城市に一社会福祉法人を設立し、障がい者のみんなと「春風薫るパン屋さん」をオープンしたことは同級生として非常に嬉しく敬服します。自分の幸せから世の中の幸せへと人生をシフトした彼に最大限のエールを送るとともに心から応援していきたい。是非、皆様も一度足を運んでいただけたら幸いです。

最後に、今の私があるのは小山高校で過ごした3年間がすべてといっても過言はありません。友人とのたわいもない会話、先生方からの優しくも時に厳しい言

葉など、全てのことが現在の私の糧となっています。在学している皆様には今を精一杯悩み、考え、楽しんでもらえたらその先には素晴らしい人生が待っていることを伝えたいです。

H.4年度卒業
坪野谷 悟輝

小山高校同窓会並びに在校生の皆様におかれましてはますますご清栄のこととお喜び申し上げます。このような機会をいただいたこと関係者の皆様に感謝申し上げます。

私は平成2年、地元の高校から甲子園に出場したいとの思いで小山高校へ入学しました。結局甲子園の土は踏めませんでした。その夢を2学年下の代が叶えてくれたことが良い思い出です。その後、野球との関りは大学で体育会野球部、企業チーム(軟式)でプレー、今は小山高校OBも在籍している小山市のクラブチーム(セルフイッシュ)の責任者として天皇杯(昨年末戦出場)、国体の優勝を目指し活動しています。

卒業後、愛知県の大学へ進学しました。そこで栃木県・群馬県・茨城県の区別がつかない、且つ東北と思っている人がほとんど(学生に限らず)、小山に

活躍される同窓生

いたっては「こやま」と言われる始末。今でこそ魅力度ランキングで下位争いがネタになるほどですが当時は凹みました。そして井の中の蛙だったことに恥ずかしさを覚えたとともに世界で勝負したい気持ちが高まり上げてきたのもこの時です。野球に関しても昔甲子園で活躍した学校だよね、と聞かれることはあってもそれがプラスになることは皆無。野球観も全く違い、何よりもガッツ感が凄まじく半年もすると慣れるものですが栃木で育った私としてはカルチャーショックの連続でした。とにかくアクティブで思っていたことは口に出し自己主張をしつかりとする。そんな環境下でいかに自分をアピールするかを常に考えていた4年間でした。しかし、そこで培ったコミュニケーション力はその後のビジネスにとっても役に立ったと思っています。

大学卒業後、東京でのサラリーマン生活を経て家業を継ぐため地元小山へ。当初は何もかもがスローなことに物足りなさを感じたのですが、逆に思慮深く物事を捉えることができるようになり今ではプラスに。同時に人との繋がりの大切さ、何より小山高校の人の広さと懐の深さにも多くを学びました。学び舎の同窓としての一体感は年代を問わず頼もしくもあり嬉しくもあります。

これからの小山高校に期待するのは校訓である「聡・直・剛」にプラスαの精神で、時代が何を欲しているのかを敏感に感じ、個が埋没しない自由な環境のもと、一芸に秀でた尖った学校、栃木県に

小山高校ありというシンボリックな学校であって欲しいと切に願うところです。最後になりますが小山高校が今後さらに充実発展されますよう心からご祈念申し上げます。



H.14年度卒業
(有)大幸製作所
大出 雅仁

卒業から二十年の歳月が過ぎました。時間が経つのは早いものですが、母校で過ごした思い出は色褪せないものです。当時の小山高校は『小山に進学校を作る』を合言葉に優秀な教員が招集され、学力向上と共に現在の校風に変革することが課せられた珍しい学校でした。そして、進学校として成果を出し、校風を定着させる年が、私が卒業する年でした。然しながら、入学時にこのようなことが課せられているとは露知らず、呑気なことを考えながら高校生活を始めます。入学後、級友の荒井君にボクシング部に誘われ、入部します。ボクシングを通して学んだことや斎藤監督、各先輩方に出会うきっかけを生んでくれた彼には本当に感謝しています。

二年次、私立理系に進んだ私に大きな転機が起こります。恩師、国安先生との出会いです。始業式の日、校内放送で職員室に呼び出され、開口一番「大出に頼

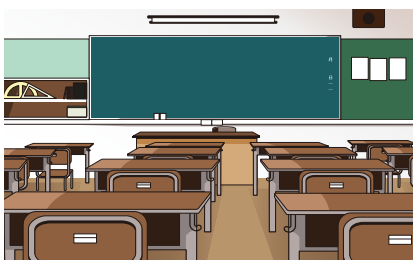
みがあるんだ。お前がうちのクラスのエースだ。皆を引っ張って行ってくれ」これが先生との初めての会話でした。何かしら指導を受けると思っていた私は呆気に取られ、言葉少なに引き受けました。その後、級友の見本になるよう学業に励みます。球技大会の時期になり、我々の目的は先生を胸上げすることに決まります。言い出したのは盛り上げ上手な関君で、やると決めたらとことんやる照沼君、戸野塚君が呼応し、クラスが纏まりました。結果、5種目中4種目で優勝し、総合優勝で目的を達成します。先生を驚かせたかった私達は、当日までやる気の無い素振りをして一芝居打ちます。望外の結果に感激した先生の目は赤く、「お前らやればできるじゃないか。先生嬉しいよ」今でも耳に残っている言葉です。

三年次、文化祭でソバ飯を販売し、模擬店は大繁盛。収益で土曜日のお昼に寿司を食べに行きます。場所は市内にある老舗の『かん八』で、座敷には42食の上寿司が見事に並んでいました。喜ぶ級友を横目に収益だけでは不足していると感じた私は、懐疑的な気持ちと感謝の気持ちが混じった複雑な感情を抱いて食べました。社会人になってから、同窓会に先生を招待し、ネクタイをお返ししたのは良い思い出です。夏になり、国立大学の学校推薦を頂き、教育学部を受験します。教育討論、教育著書を読みあさり、小論文や面接の練習に3カ月程打ち込み

ましたが、結果は不合格。その後のセンター試験は苦手科目で苦戦し、私の受験は失敗に終わりますが、多くの級友達は受験に成功し、国立理系クラス並みの成果を出します。私は先生に任された皆を引っ張って行く約束を果たし、安堵すると共に皆の結果を誇らしく感じました。

卒業式の日、先生は思い出話から涙目になり、唇を震わせながら「お前らのことが大好きだ。愛してるよ」と言葉を贈り、私達も感極まっていたのを昨日のよう覚えています。

この度、寄稿を依頼され、久しぶりに国安先生に会いに行きました。一緒に当時は振り返る有意義な時間を過ごし、改めて自分自身の根幹を形成した時期であったと感じました。学業を通し、仲間との友情、先生との信用、信頼そして愛情、全てのことに感謝し、我が学校小山を誇りに思います。末筆ではございますが、同窓会の皆様、並びに同校の発展に関わる皆様に深く感謝を申し上げ、益々の発展をご祈念申し上げます。



活躍される同窓生



H.19年度卒業
声優
森 千晃

声優の森千晃です。私が声優を目指すのと思い立ったのは、進路調査やオープンキャンパスへの参加など、将来について考えることが増えた高校二年生の時でした。絵本が好きで絵本を読むことを仕事にしたいと思い、この職業に興味を持ったのです。夏休みには複数の専門学校の見学へ行き、進路調査にはそれらの学校名を記入して提出しました。

しかし結局私は、声優とは関係のない埼玉大学工学部に進学しました。両親と先生方から、大反対にあったからです。反対の理由は真つ当なものでした。専門学校を卒業しても声優になれる保証がない事、最終学歴が声優専門学校卒業では声優以外の職業選択の幅を狭めてしまう事、声優になれても専業で生活できるのは限られた人である事。今思えば、私が将来後悔することが無いようにと、それぞれの経験から意見をくれていたのだとわかります。しかし当時の私は、大学進学を勧める両親や先生たちを敵のように感じていました。「挑戦してもいいのに叶うわけがない」と決めつけられている、夢を否定された」と思っていたのですが、「賛成しない」全否定」ではないと、その時は気付くませんでした。誰も何かを

強要していたのではありません。私が進路選択する上での、選択肢と材料を与えてくれたのです。

何か大事な選択をする時、「自分で考えて決定すること」が大切です。迷っているうちに、周りからは様々な情報が舞い込んでくるでしょう。でもどんな情報も「敵」ではなく、自分が納得して物事を選択するためのヒントだと今は考えています。「意見を押し付けられている」と感じたなら、自分の受け取り方がひねくれているのか自問します。自分の選択に責任を持つのは結局自分なので、自分に全く合わない意見はひとまず脇に置いておくことにしています。こう考えると人生に敵は少ないです。

高校生の私は、大学進学を選びました。大学生を体験することは、声優人生においても、その他の人生においても、きつと役に立つと考えたからです。

もし別の選択をしていたら、と考えることもあります。何が正しい選択だったのかは、一つの人生しか歩めない以上誰にもわかりません。「正しい選択」もなければ、「間違った選択」もない。だからこそ、多くの意見や情報を味方にして、自分が後悔しない選択を積み重ねていきたいと思っています。この雑文も誰かの人生において小さなヒントになれば幸いです。



懐かしの先生



元小山高校教員
岸 哲郎

橋先生の凄いいところは、地域農業の将来を見えており、現在、言われている地方創生の礎を築くため、県教委や各中学校に働きかけ日常的に奔走していました。

教え子は、現在の小山の中核農家として活躍して居ります。先生の授業のエピソード……農業経営のテスト時、わら半紙を一枚づつ配り、題、我が家の栽培作物と規模（面積）を書きなさいと板書するだけでした。用紙を回収すると、一人の生徒に渡し、ゴミ焼却場（今の部室棟辺り）へ持って行って燃やせました。先生私達の点数はどうするんですか。と言うと、私の頭に入っているからと答えたそうです。又、当時は、農家の長男であるからと言うだけで、成績の良い生徒が多く入学してきました。この生徒達は、それぞれに自分の意見を持っており、教師と生徒間の意志（意見）が活発に行われました。私も当時28才でしたので、やりがいのある時代でした。大橋先生が中心となり、昭和43年頃より、新しい高校の建設計画が進み、現北桜高校の場所の平地林（土地は痩せていて雑木も伸びない）を20町3反を取得し、まず農場作りがスタートしました。この時期の授業は、土地の整地や除草、穴掘り等のため一クラスが丸一日新農場へマイクロバスで出掛けていました。

話は変わりますが、私も大学4年間、軟式庭球部に所属し、活動していましたので、部活の顧問として指導をして居りました。又、県の軟式庭球連盟の理事とし

当時、農場長は大橋宏先生であり、大



て、県大会の運営にも係わっていました。昭和43・44年、荒井・関口組が関東大会、インターハイに出場し、昭和44年の長崎国体にも県代表として出場しました。

部活のテニスコートは、講堂の南側に二面だけでしたので、男子は、市役所裏側（現在の駐車場）にあった市営コート二面をお借りして男子は、放課後こちらに自転車又は徒歩で行き暗くなるまで練習しました。

丁度、10年前（昭和34年卒）に卒業した福田・石黒組もインターハイ、国体に出場しており、その福田昭一さんが、先輩としてコーチに来て戴き、大いに助かりました。

まとまりのない感想ですが、小山高での生活は、活気もあり、楽しい時を過ごさせて頂きました。



昭和43年の小山高等学校

国体報告

第77回国民体育大会栃木大会における本校生の活躍を紹介します。

10月3日～5日、宇都宮市ユウケイ武道館で行われた剣道競技には、少年男子（選抜チーム）代表として3年生の清武賢也、関根 奏が、少年女子（本校単独チーム）代表として3年生の高松由來、毛塚飛鳥、刀川優希、屋代 悠、青柳優希、1年生の大河原彩香、山口美優が出場しました。剣道競技では少年男女・成年男女の全種目において優勝し、少年男子は栃の葉国体以来2回目の優勝、少年女子は国体初優勝を遂げました。また、本校保健体育科の鈴木慎太郎教諭も成年男子チームの選手として出場し優勝を果たしました。

10月2～6日、宇都宮市日環アリーナ栃木で行われたバスケットボール競技には、少年男子（選抜チーム）代表として2年生の伊澤亨知が出場しました。2回戦で強豪福岡県に敗れましたが、全力プレーで活躍しました。

第77回国民体育大会とちぎ大会 剣道競技（男女） 剣道部 報告

10月3日～5日、宇都宮市ユウケイ武道館で行われた第77回国民体育大会とちぎ大会剣道競技に、栃木県少年男子代表として3年生清武選手・関根選手、少年女子代表として3年生高松選手・毛塚選手・刀川選手・屋代選手・青柳選手、1年大河原選

手・山口選手が出場してきました。結果は、少年男子女子ともに優勝することができました。また成年男女とも優勝し、全種別で優勝を勝ち取ることができました。選手たちは「地元選手」という大きなプレッシャーの中、最後まで力の限り戦い抜くことができました。選手たちが最後まで戦えたこと、そして結果を残すことができたことは、ひとえに皆様からの多大なる応援のお陰であると、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

選手たちは、皆様から頂いた数えきれないほどの御恩と、この経験を胸に、ここで終わることなく今後恩返しができるようさらに精進してまいります。今後も変わらぬご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



第77回国民体育大会とちぎ大会 男子バスケットボール部 報告

伊澤 亨知

二回目の国体ということもあり、この栃木国体にかける思いは人一倍強かったと思う。昨年の三重国体は、関東ブロックを突破したものの新型コロナウイルスの影響で中止になってしまい非常に悔しい思いをした。そのため、今年の栃木国体は、昨年のメンバーの想いも背負い一つでも多く勝利を掴みたかった。

初戦の香川戦では、ディフェンスでエースストッパーとして相手の得点源を抑えた。オフENSEでは、五本のスリーポイントを含む二十得点を挙げ、勝利に貢献することができた。続く二回戦の福岡戦では、自分たちの出せる力をすべて出し切った





前列右から2番目が伊澤亨知さん

が、福岡の選手のスキルやフィジカルに圧倒され、惨敗した。

栃木国体を通してバスケットのことはもちろん、バスケット以外のことも成長することができた。国体で学んだことを、自分のチームである小山高校で発信していきたい。

また、ここまで私のことを指導して下さった先生方、一番近くでサポートしてくれた家族、そしてバスケットの環境を整えてくださった同窓会の皆様には感謝しかありません。これからも努力を惜しまず更に自分を磨いていきたいと思う。

野球部招待試合

春夏通算6回の甲子園出場を誇る小山高校野球部が6月4日、小山運動公園野球場で茨城県の強豪・鹿島学園高校野球部を迎え、招待試合が行われました。

対戦した鹿島学園高校野球部は茨城県代表として2021年夏の甲子園に初出場。同校の鈴木博織監督は、小山高校が1968年夏に甲子園に出場した際のエースピッチャー。日本大学、社会人野球を経て指導者に転身し、2016年に鹿島学園の監督に就任しました。小山高校野球部後援会からの依頼を快く承諾いただき、今回の招待試合が実現しました。

招待試合当日は両校関係者の他、市民の皆様や学童野球に励む小学生の姿も多く見られ、多くの来場者に来ていただきました。小山高校野球部後援会は学校や地域を挙げて同部を支援しようと3年前に設立しました。ボールやネットなどの寄贈や、小山高校野球部OBで元プロ野球選手の広澤克実氏の指導や会員の練習補助の機会を作るなどしてきました。招待試合は初の対外的なイベントとなりました。

野球部は今春はベスト8に進出しましたが、夏は3回戦敗退。私立高校が勢力を伸ばすなか、県立の雄として一矢報いる姿、ジャイアントキリング、そして古豪復活を期待したい。

(記 高德 将朗)



在校生の“今”

第69回関東高等学校剣道大会

(男女) 剣道部 報告

6月11日・12日に群馬県前橋市ぐんまアリーナで開催された、第69回関東高等学校剣道大会に出場してきました。

1日目は女子団体・男子個人が行われ、女子団体では、初戦から厳しい戦いを競り勝ち、決勝戦進出を果たしました。決勝戦は茨城県立守谷高校との対戦となり、先鋒から大将まで引き分け、代表戦で惜しくも敗れ準優勝となりました。男子個人では、



3年の清武選手が出場し、こちらも初戦から厳しい戦いを競り勝ち、見事第3位となりました。

2日目は男子団体・女子個人が行われ、女子個人では3年の高松選手・毛塚選手・屋代選手・青柳選手が出場しました。4名とも、健闘しましたが、毛塚選手は2回戦、高松選手・屋代選手・青柳選手は初戦で敗退となりました。男子団体では、初戦から自分たちの力を発揮して勝ち上がり、昨年に続き2年連続決勝戦進出を果たしました。決勝戦は同県の佐野日大高校との対戦となりました。試合は先鋒戦で惜しくも1本負けを喫しましたが、次鋒戦では、準決勝から途中出場した1年の根本選手が期待に応え2本勝ち、その後、緊迫した展開の中、大将戦まで引き分けて本数差で勝利し優勝を手にすることができました。

また、今大会の優秀選手として男子3年

清武選手、女子3年高松選手が選出され表彰されました。

小山高校男子団体の優勝は昭和57年の第29回大会以来の40年ぶりの快挙、また女子団体の決勝戦進出は小山高校女子としては史上初の快挙となりました。選手及び部員達はチーム一丸となり、全員が力を発揮し、健闘しました。しかし、まだ目標である日本一はこの先にあり、この結果に満足することなく、さらに精進していきたいと思えます。

今回も無観客試合となり、ライブ配信で応援してくださいました保護者の皆様、様々な形でご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。今後ともよろしく願っています。

第14回全日本都道府県対抗

女子剣道優勝大会(女子)

剣道部 報告

7月10日に日本武道館で行われました第14回全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会に栃木県代表の先鋒として、本校3年生の毛塚飛鳥選手が出場してきました。

結果は1回戦で福岡県と対戦し、毛塚選手は引き分けましたが、チームは1-2で惜しくも敗れ、初戦敗退となりました。敗れはしましたが、県代表として立派な試合を展開していました。当日は小山高校剣道部全員で会場に行き、栃木県チームを応援しました。今後のインターハイ、国体に向けていい刺激を受けることができた大会でした。

第69回

全国高等学校総合体育大会

剣道大会(女子) 剣道部 報告

8月5日～7日に、高知県春野総合運動公園体育館で行われた令和4年度第69回全国高等学校総合体育大会剣道大会(インターハイ)に、女子団体戦および女子個人戦2名が出場してきました。

1日目は女子個人戦が行われ、本校の山口選手(1年)は1回戦で明石(兵庫県)の選手に健闘しましたが、延長の末敗れてしまいました。高松選手(3年)は1回戦で近大附属(大阪府)、2回戦で桐蔭学園(神奈川県)、3回戦で守谷(茨城県)の選手にいずれも延長戦で競り勝ち4回戦まで進みましたが、鈴鹿(三重県)の選手に敗れ、ベスト16という結果でした。

2日目は女子団体戦予選リーグが行われ、耐久高校(和歌山県)と星野高校(埼玉県)と対戦しました。いずれも拮抗した試合展開の中、それぞれ1-0と2-1で競り勝ち、3日目の決勝トーナメントに進むことができました。

3日目の決勝トーナメントでは、1回戦で東海大札幌(北海道)との対戦し、1-2で惜しくも敗れベスト16という結果でした。

春の全国選抜大会の悔しさを胸に、本気で日本一を目指して挑んだ大会だっただけに、悔しい結果で終わってしまいました。しかし、選手・部員たちは最後まで諦めることなく戦い抜きました。そして高校生最高の舞台上で素晴らしい経験をし、大会を通



して成長することができました。3年生はこの悔しい思いを後輩に託し、それぞれのステージに進んでいきます。この後に控えるとき国体・新チーム始動に向けて、部員一丸となってさらに精進してまいりますので、今後も応援のほどよろしくお願いいたします。

また、今回のインターハイでも大会会場まで足を運んで応援してくださいました保護者の方々や、ライブ中継で応援してくださいました皆様、様々な形で応援してくださいました関係の皆様に関心から感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

ウエイトリフティンング部

関東大会に参加して

2年 清水 祐希

この関東大会は不安と緊張で押しつぶされそうな大会だった。本来、1年生の1月にあった関東選抜大会で関東の舞台に上がるはずだった。しかし、怪我により棄権したため、この関東大会が初の関東の舞台となった。今までの大会では練習の成果を出そうとして力みすぎて思う様な結果が出せないことが多かった。更に今回は初めての関東大会ということが重なり、大会が近づくに従って緊張がかなり高まっていった。そして大会当日。嫌な予感の中。スナッチのアップが思う様に挙がらず不安で逃げ出したくなった。名前がコールされ自分の番が来た。関東大会のプラットホームは普段の練習よりも高く設置されている。普段との違いからくる違和感が緊張を増幅させた。頭の中は真っ白になり、どう失敗したのかも覚えていなかった。しかし、極限まで緊張したためか2本目からは開き直って「失敗してもいい。思いきりやろう。」そう思えたことで後の試技は全部成功した。

今回の関東大会は貴重な経験をした。この経験を生かすため、緊張に押し潰されないように普段からの練習で大会を想定し、緊張感をもって取り組んでいくことの大切さと、また、大会では絶対調ばかりではない。最悪を想定して練習に取り組む重要性を学んだ。これらを今後の大会に生かしたい。

全国高校女子選手権大会に参加して

3年 増山 花楓

私は小山高校に入学して父の影響からウエイトリフティンングを始めました。全国大会は初めてだったので本番で失敗してしまうのではないかと不安になり練習も思い通りにいかず弱い自分に負けてトレーニングを妥協してしまうこともありました。こんな自分が情けない、こんな練習でいいのかと自問自答する日々が続く、ウエイトリフティンングから逃げたくなりました。そんな時に父から「最後の全国大会なんだから楽しまなきゃ。」と言われて、厳しい練習をすることが目的となつてしまい、ウエイト本来の楽しさを忘れていたことに気づかされました。そして大会を迎えました。緊張のあまり満足できる記録は残せませんでした。しかし、自分なりに精いっぱいやり切った達成感がありました。

今までの大会や日々の練習を振り返って、失敗を恐れずに挑戦する事の大切さや継続することの難しさ、また努力の先にある楽しさを学びました。最後になりましたが、今まで私を支えてくれた両親と関わっていただいた先生方に心から感謝申し上げます。

インターハイに参加して

3年 野澤 奈穂

今年のインターハイは愛媛県新居浜市で開催されました。私にとって全国大会は5度目の出場でした。全国大会は慣れているつもりでも最後の大会になるためかなり緊張しました。スナッチで2回失敗してしまい暫定8位。入賞には届かないと思っていましたが、ジャークで巻き返す事が出来て

トータル5位、種目別ジャークで3位に入賞しました。ベスト記録から見れば満足のいく記録ではありませんでしたが、自分なりにやり切った達成感がありました。この3年間を振り返ると本当にたくさんのことがありました。コロナによる部活動停止や怪我。さらに体調不良による約1年間の記録の停滞。しかしそんな時でも両親や先生方、友人の支えがあったお陰で一つ一つ乗り越える事が出来ました。そして全国女子選手権とインターハイで2つのメダルを獲得できたのも多くの方々の支えがあったからだと思います。この経験を次のステップに生かし頑張りたいと思います。

陸上競技部

今年度、陸上競技部では4名の選手が関東大会への出場を果たしました。6月に栃木県で開催された関東高等学校陸上競技大会では3年中山颯梧が男子5000m競歩に出場しました。強豪揃う関東大会では思うような成果は発揮できませんでしたが、粘り強く挑戦する姿勢は後輩にも大きな勇気を与えました。8月に山梨県で行われた関東選手権には2年生生川美姫が女子3000m障害に出場しました。自身2回目の障害レースでありながら果敢に上位を狙い、7位入賞を果たすことができました。

10月に神奈川県で行われた関東選抜新人大会には2年高木蒼太が男子8000mに、1年印南智史が男子4000mに出場しました。2人とも予選敗退に終わりましたが、今回の経験は来春のインターハイ出場を目指して戦っていく上で生きてくるはずです。

関東大会進出した選手以外にも県大会で準決勝・決勝に進出する選手も多く出てきています。陸上競技は個人競技ではありますが、チーム一丸となって目標に向かって取り組んでいる成果が表れているのを感じます。来シーズンでの更なる飛躍を期待し、冬季練習に取り組んでいきたいと思っています。

水泳部

千葉県国際水泳場で行われた、令和4年度関東高等学校水泳競技大会参加してきました。3年生の村上陽大が100m背泳ぎに、1年生の黒田彩華が200m平泳ぎに出場しました。

村上は、長い間続けてきた水泳競技の最後の大会であり、いつも以上に気が引き締まる思いで臨むことができました。黒田は、初出場でしたが、大会のオープンレースを泳ぎました。今年の関東大会では、チーム栃木として、多くの選手から応援してもらい、とてもいい雰囲気です。レースに臨むことができました。本大会では、二人とも自己ベスト更新には届きませんでしたが、悔い



の残らないレースになりました。大会出場にあたり、大変多くの方々から応援していただきました。本当にありがとうございました。水泳部は少数精鋭の強いチームであるため、来年も再来年も関東大会に出場していく伝統が築けるよう、これからも日々努力を重ねていきます。



修学旅行

危うい平和を自らの手で知る

2年1組 吉田 有里奈

広島に到着してすぐ、私たちは原爆ドーム・平和記念公園を訪れました。初めて実際に見る原爆ドームに圧倒されましたが、その周りの町並みはきれいに整備されており、この地に原爆が投下されたことはとても信じがたい事実でした。

しかし、切明千枝子先生のお話を聞いて、当時の広島の悲惨さに衝撃を受けました。実際に被ばくを経験した人にしかわからない

あの日の光景、出来事、人々の気持ちなど、先生はそのすべてを痛々しく、詳細に説明してくださりました。私も先生のお話を聞いただけで心が痛みましたが、当時の人々の悲しみは私たちには計り知れないものだったと思います。中でも、下級生のご遺体を自分の手で火葬しなければならなかったという話が特に印象に残っています。

目の前で人が一人亡くなってしまうだけでもショッキングなのに、同じ学校の下級生が何人も亡くなって自分の手で埋葬しなければならなんて今の私たちには考えられないような出来事がたった70数年前に起こっていたことに驚きが隠せませんでした。最後に切明先生がおっしゃった言葉に「平和はとても危ういもの。油断するとすぐ逃げちゃう。」というものがありました。今私たちが平和と呼べる暮らしができてるのは、平和が当たり前に存在しているのではなく、唯一の被爆国であるこの日本をもう二度と戦争の悲劇を起こさず平和にし続けようと努力している人々のおかげだと知ることができました。

これからは誰かに守られている平和の中に生きるのではなく、自分自身で必死になつて平和を守っていけるように行動していきたいです。

静寂が訴えかけるもの

2年3組 篠崎 颯太

時が止まった場所。広島平和公園に足を踏み入れたとき、私はそう感じざるを得ませんでした。

私たちが広島平和公園を訪れたその日は、白を基調とした広場の様相に、ずっと遠くまで澄んだ青空が映えて、月並みですが、

より一層の平和を感じさせる趣がありました。ベンチに座り昼食をとるふたりの女性、散歩をする老夫婦、駆ける子ども。そのどれもが、平穏を思わせる一要素となっていました。しかし、それを目の当たりにしてもなお、肌をひりつかせる緊張の感がそこにはありました。

入って少し歩を進め、見えた小川を挟んだ先は原爆ドームがありました。それはまさしく負の遺産であり、当時の戦争の凄惨さをそのままに纏い、喉が詰まり、体が地に沈むような重圧を放つその様相に、私は啞然としてしまいました。言ってしまうと、ただ在るだけなのです。原爆ドームも、漂う静寂も、ただそこに存在しているそれらが、確かに過去を遺しているのです。

現代は過去の地続きであるのだと、私はこの身で確かに感じました。であればこそ、未来を、これから生きる私たちは、過去を思い、繋いでゆくことで、いまをつくっていけるのではないだろうか。



令和4年 小山高等学校 創立記念講演

「生きる力 生き抜く力」～失敗は発見 失敗は成長～

◎開催日 令和4年11月9日(水)

◎講師 株式会社 日本ヒューマン経営研究社 代表取締役

<経営・商売・生き方> 研究家・講演家 **大塚 徹 様**

※講師の大塚様につきましては、同窓会ホームページ第5号 3ページをご参照下さい。

小山高校創立記念講演を聞いて

2年1組 金子 詩季

今回の記念講演のなかで、最も印象に残っているのは、「口癖が人生を決める」という言葉です。また、講演中何度も「人間は言葉でできている。」という言葉が聞きました。口癖はなかなか直るものではありません。ですから、自己対話を通して一度立ち止まって考え、他者の視点にも立って考えることが大切だと思います。私はよく自己対話を行い、一度冷静に考えてから発言するように心がけていますが、「逆境のときに人は成長する」という言葉は、これから私の人生において心に留めておくべき言葉だと思います。私の高校生活は、これから進路選択の大切な時期を迎えます。もし難題にぶつかってしまったときや、なかなか良い結果が得られず落ち込んだとき



などにこの言葉を思い出し、あきらめず志を高く持ち、目標に向かって励んでいこうと思えました。この話を拝聴できた今、この話を糧にして、日々心残りのない高校生生活をより豊かに送り、さらには、充実した人生を歩んでいこうと思います。



自分の意志で決定する

1年6組 天谷 松佐

今まで私は、自分の未来、将来に明確な目標を持つことができず、将来の夢があやふやでした。そのため、自分に自信が持てず、周りの人に合わせるが多かったように思います。この講話で大塚さんが仰っていた、「人生は自分の意思で決定する。」という言葉を伺って、これは自分へのメッセージだと思いました。そして自分の未来を主体的に考えるようになりました。今までは自分のことを気にかけてくれる人の意見

や考えに影響され、本当の自分の意思をはっきりとは示してこなかったと思います。しかし、これから成長していくにつれ、今まで以上に自分で選択していくことが多くなってきます。様々な人と関わっていく中で、影響を受けることもあると思いますが、最終的には「自分の意思で決定」するので、今回の講話で、そのことに気づかせていただきました。これからは自分自身の将来を見据え、今何をすべきかをしっかり考え、自分というものをより上げていきたいと思えます。

これから、たくさん問題にぶつかっても、それを成長のチャンスと捉え、この小山高校でどんどん積極的に学んでいきます。多くの学びを重ね、様々な人から刺激を受け、自分自身の進む道を模索しながら頑張っていきます。



令和3年度 栃木県立小山高等学校同窓会会計決算書

収入額 5,252,222円 支出額 2,577,796円 差引残額 2,674,426円

収入の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
繰越金	2,390,207	2,390,207	0	前年度繰越金
会費	2,270,000	2,270,000	0	10,000円×227名
雑収入	793	592,015	591,222	預金利息、同窓会寄付金等
合 計	4,661,000	5,252,222	591,222	

支出の部

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 引	摘 要
会議費	315,000	181,381	133,619	総会、役員会等
通信運搬費	200,000	90,738	109,262	切手、はがき等
印刷製本費	500,000	205,370	294,630	同窓会報印刷代等
卒業記念品	250,000	131,660	118,340	卒業記念品(証書ホルダー)
旅費	70,000	0	70,000	研修視察費用
渉外費	85,000	0	85,000	対外的渉外費用
支部助成費	30,000	30,000	0	清山会助成
研修費	200,000	0	200,000	
入会式費	60,000	12,894	47,106	記念置き時計等
進学助成費	100,000	79,200	20,800	進路だより
競技出場補助費	250,000	131,000	119,000	関東大会以上出場生徒助成金
創立記念助成費	350,000	261,800	88,200	創立記念タオル
慶弔費	280,000	61,000	219,000	会員の慶弔、餞別
教育活動補助費	300,000	0	300,000	
事務補助費	150,000	140,000	10,000	事務補助
積立金	1,200,000	1,200,000	0	特別事業費積立(周年事業等)
予備費	321,000	52,753	268,247	アニバーサリーホール維持管理費等
合 計	4,661,000	2,577,796	2,083,204	

29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	事務局	監事	監事	監事	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務	庶務
坂井	眞淵	西村	高森	小藤	和久井	小川	秋山	山中	鈴木	楠田	渡辺	赤荻	植村	五木	増子	大橋	小林	近藤	高橋	菱沼	小堀	岩崎	滝沢	山本	船渡	栗田	横尾	石崎
梨恵	瑠子	陽子	輝和	安正	明志	静男	利一	良弘	健一	秀勉	夫一	浩一	浩子	浩司	文男	敏明	康弘	信雄	英子	順子	晴一	洋子	幸男	進進	進進	進進	進進	進進

小山高校

令和4年度 同窓会役員名簿

(令和5年2月1日)

同窓会報発行にかかる費用をご寄付いただいた皆様 ありがとうございます

今回皆様の温かく、心強い御支援を頂いた賜と心から感謝いたしております。
ここに、ご寄付くださった方々のご芳名を謹んでご報告申し上げます。

(敬称略・ご入金順 令和五年一月十日現在)

吉島見悦子	長野利治	大橋茂男	橋本幸泰	松浦昭弘	貝賀良弘	鈴木俊彦	蒲田直樹	蒲田博夫	北沢寿一	川島裕夫	山野中一	雲井真一	武井晃徹	大塚尚彦	寺内均夫	倉島成也	出井達男	篠田富雄	松本裕子	山口孝也	内藤和也	高橋マサル	稲葉英男	山弘幸平	藤沼喜平		
小林	大木	植村	飯野	諏訪	古沢	山本	小井田	黒川	毛塚	渡邊	大川	重村	百鬼	関井	新井	須田	根本	大里	坪野	荒川	篠崎	篠崎	大橋	須田	小堀		
友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳	友佳			
豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元	豊元			
鷺谷	高岩	酒井	板橋	富塚	関原	桑原	南原	増山	池上	叶内	山本	白井	井村	藤ヶ枝	松本	池田	吉井	岩崎	横井	潮勢	伊勢	蓮見	山中	佐久間	海野	高野	渡辺
尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	尚昌	
匿山剛名	細田剛名	原田剛名	原田剛名	大田剛名	石田剛名	星野剛名	福田剛名	猪瀬剛名	猪瀬剛名	坪野剛名	井島剛名	佐藤剛名	中島剛名	上野剛名	高橋剛名	船渡剛名	岩瀬剛名	平田剛名	北島剛名	山田剛名	館野剛名	中嶋剛名	三澤剛名	岩崎剛名	須藤剛名	早乙女	
剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	剛名	

同窓会報の発行を継続するために、今後ともよろしくお願いいたします。

同窓会事務局から

お知らせ

令和五年度の同窓会総会

日時二〇二三年五月二十日(土)

午後二時～ 小山高校学習室2

コロナ感染対策を取りながら開催の予定です。

詳しくは後日、学校HPでお知らせします。

お願い①

第三号より、「活躍される同窓生」を、第六号より「懐かしの先生」というコーナーを設け、同窓生の近況や様々な情報を掲載し、小高同窓会報を年一回発行していきたいと考えております。寄稿していただける方がいらしたら、自薦他薦問いませんので事務局までご連絡ください。

お願い②

小山高の歴史、過程や学科の変遷、部活動の栄光の記録など集積したアニバーサリーホールが百周年を記念して本校に整備されました。展示していただけるものがありましたら、事務局までご連絡ください。

お願い③

小山高校ホームページにて、同窓会から情報発信する場合がございます。内容を御確認下さい。第五号までの同窓会報もホームページでご覧頂けます。

編集後記

『同窓会報第六号』をお目通し頂きましたか。各分野で活躍される同窓生のご寄稿を始めとして、かつての恩師の懐かしの思い出や在校生の部活における各大会での目まぐるしい活躍、それと特集記事として第77回国体「いちご一会とちぎ国体」での、剣道の少年女子(小山高単独チーム)の見事な初の栄冠、少年男子の優勝等素晴らしい結果が生まれ、大変誇らしく思いました。『小山高 ブラボ』また伝統ある小高マラソン大会の代替の創立記念講演会の様子等を掲載させて頂きました。

この会報発行も数を重ね、益々軌道に乗って来しました。

新型コロナウイルスの感染が心配される大変厳しい社会情勢のなか、ご寄稿頂いた方々をはじめ、ご協力を頂いた多くの皆様に厚く感謝を申し上げます。

今後とも、よろしくお願いいたします。

(大橋)

小山高等学校同窓会事務局

〒323-1002

栃木県小山市若木町2-18-51
TEL 0285-12210236



小山高校ホームページには上記の二次元コードからもアクセスする事が出来ます。ぜひご利用ください。